

# あいち病害虫情報 最新情報

平成29年 6月15日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 梅雨入りは平年より1日早い

6月7日頃に梅雨入りしました。本日発表の名古屋地方気象台の1か月予報によれば、期間のはじめは降水量が少ない状況が続く、向こう1か月の降水量は平年並か少ない見込みです。

## いもち病（葉いもち）

葉いもちは、例年6月下旬から発生し始めます。葉いもちを対象とした育苗箱施薬をしていない場合は、葉いもちの早期発見、早期防除に心がけましょう。なお、本日発表の「いもち病（葉いもち）情報第1号」に葉いもち感染好適日の判定結果を掲載しましたので、参考にしてください。

## ウンカの飛来状況

セジロウンカなどのウンカ類やコブノメイガは、梅雨前線の活動に伴い断続的に飛来します。ほ場の観察をしっかりとって、発生状況の把握に努めてください。なお、飛来状況はウンカ情報として適宜提供していきますので、防除の参考にしてください。

## 斑点米カメムシ類

予察灯においてミナミアオカメムシが捕獲されています。本虫は、コムギ収穫後、タデ科雑草やネズミムギ（イタリアンライグラス）で生息しています。また、カスミカメムシ類は、畦畔、土手及び休耕田などで出穂したイネ科の雑草で繁殖します。ほ場周辺の除草を徹底し、繁殖を未然に防ぎましょう。

## 果樹の病害

ナシ黒星病は風雨により発生が拡大します。6月2日発表の「平成29年病害虫発生予察注意報第1号」を参考に防除を徹底しましょう。

モモせん孔細菌病は、風を伴った雨で発生が拡大します。風当たりの強いほ場では特に注意し、防除を実施しましょう。

ブドウ黒とう病及びブドウべと病の発生は、平年並です。ただし、降雨が続くと短期間に発生が拡大します。発病果房や発病葉は見つけ次第除去するとともに速やかに防除しましょう。ブドウ晩腐病の病原菌は、6月から7月に最も多く飛散するため、この時期に降雨が多いと発生が多くなります。昨年発生が多かったほ場では特に注意し、発病果房は見つけ次第除去しましょう。

カキの角斑落葉病及び円星落葉病の病原菌は、6月上旬から7月中旬に最も多く飛散し、感染します。予防に重点をおいて、防除を実施しましょう。

## ナシヒメシンクイ

フェロモントラップにおけるナシヒメシンクイの誘殺数はおおむね平年並です。今後は途切れなく発生し、世代数を重ねるほど虫の密度が高くなります。モモ、ナシでは果実が食害されますので、収穫前日数に注意して防除しましょう。

## チャノキイロアザミウマ

チャノキイロアザミウマの黄色粘着トラップにおける誘殺数及びほ場周囲におけるイヌマキ（防風垣）10新梢の払い落とし虫数はおおむね平年並です。しかし、降雨が少なく発生に好適な条件が続いており、今後の発生には注意が必要です。

本種は軟弱な葉や新梢で増殖しますので、不要な枝は取り除くなどの栽培管理に注意し

ましよう。ウンシュウミカンでは、6月上旬から7月にかけて果梗部の被害が発生しやすくなります。ブドウでは、袋掛けまでに防除を徹底しましょう。

本種の防除適期は成虫の発生ピークです。アメダス観測地点において有効積算温度を利用した第2世代の成虫発生ピークの予測日は下表のとおりです。6月2日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第2号」における予測日から0から3日遅くなりました。また、第3世代成虫は中山間部に位置する稲武を除いて7月7日から7月14日です。発生ピーク予測を参考に薬剤防除を実施しましょう。

	愛西	南知多	名古屋	豊田	大府	岡崎	蒲郡	豊橋	伊良湖	新城	稲武
第1世代	5/23	5/23	5/20	5/23	5/20	5/24	5/22	5/23	5/22	5/26	6/16
第2世代	6/20	6/21	6/16	6/21	6/17	6/21	6/19	6/20	6/19	6/23	7/13
(前年)	6/13	6/13	6/8	6/13	6/9	6/14	6/11	6/12	6/11	6/16	6/6*
前年差	7日遅	8日遅	8日遅	8日遅	8日遅	7日遅	8日遅	8日遅	8日遅	7日遅	10日遅*
第3世代	7/11	7/13	7/7	7/12	7/7	7/12	7/11	7/11	7/10	7/14	8/5

各地のアメダス平均気温から予測。\*稲武については、第1世代の前年ピーク日との前年差。

6月14日までは実測値を、それ以降は平年値（大府、豊橋は前年値）を用いて計算。

前年の第2世代は、前年気温の実測値を用いて計算。

## 果樹カメムシ類

チャバネアオカメムシのフェロモントラップ及び予察灯の誘殺数は、やや少ない状況です。ただし、夜温が20℃を超えるこの時期は、活動が活発になる時期なので、例年被害が多い園では、飛来状況に注意し、飛来を確認したら防除を実施しましょう。

## アブラナ科野菜のチョウ目害虫

コナガは、フェロモントラップの誘殺数が多い地域があります。キャベツなどのアブラナ科野菜では、秋冬作の発生源とならないよう、収穫終了後は残渣を適切に処分しましょう。

オオタバコガは、フェロモントラップの誘殺数が多い地域があります。春の誘殺数が多い年は秋の発生が多い傾向がありますので、注意しましょう。

## トマト黄化葉巻病、トマト黄化病、キュウリ黄化えそ病の伝染源を減らしましょう！

施設トマト（促成・半促成栽培）の栽培が終了する時期です。タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）、コナジラミ類はトマト黄化病（TOCV）を伝搬します。次作トマトが黄化葉巻病や黄化病に感染しないように、栽培終了後、施設を密閉してコナジラミ類を死滅させ、発病株は適切に処分しましょう。

施設キュウリでは、ミナミキイロアザミウマがキュウリ黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）を伝搬します。次作キュウリが黄化えそ病に感染しないよう、栽培終了後、施設を密閉してミナミキイロアザミウマを死滅させ、発病株は適切に処分しましょう。

## イチゴのハダニ類

乾燥傾向で、ハダニ類の発生に好適な条件が続いています。親株床では、発生状況に注意し、防除を徹底しましょう。

## キクの病害虫

白さび病は例年、梅雨期に感染が多くなります。発病が見られるほ場では、被害葉を切除して適切に処分するとともに、同一系統薬剤の連用を避けて防除しましょう。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室  
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820